

日本大学芸術学部



校友会報

平成28年10月発行
2016年秋季号

97

C O N T E N T S

学部長インタビュー

学部長・名誉会長 野田 慶人 3

第10回日藝賞記念講演

池松 壮亮 5

中村 獅童 6

平成28年度校友会総会 7

皆さん今日は! 8

福岡江古田会 10

ふくしま江古田会第8回総会/鹿児島江古田会平成28年度総会 11

第17回宮崎江古田会総会開催/山形江古田会総会 12

熊本江古田会総会/平成28年度佐賀江古田会総会 13

長野江古田会/宮城江古田会/石川江古田会総会・懇親会・研修会 14

北海道江古田会総会 15

岡山江古田会総会/愛知江古田会設立総会 16

江古田会各支部連絡表 17

学科ニュース 18

編集後記 23

日芸祭

2016
[平成28年]

11/3 木 4 金 5 土

江古田校舎



校友会コーナー(お休み処)を
設けております。どうぞ新しくなった
江古田校舎にいらして、
校友会コーナーにお立ち寄りください。

THE ART FESTIVAL

学部長インタビュー

綾部 早速ですが、6月6日号の『アエラ』に“最強学部の子バイバル”という特集が生まれ、有名私立大学の「看板」と言われる早稲田の政治経済学部、慶応の医学部、中央の法学部などと並んで、日大の芸術学部が選ばれたのには驚ろきました。

野田 いや私も、特に説明もなくこられたので戸惑いました。

綾部 じゃあ、こちらから働きかけた訳じゃなくて？

野田 ええ、庶務課に取材の依頼はあったようですがいきなりでした。

綾部 「いずれも個々の分野でトップを走る最強の学部だ」とありますし、開設から一世紀を経ても古びずに、存在感を発揮していると。

野田 本当に良く書いてくれています。「違う才能同志が日芸で出会い、化学反応が起きる」等々。

綾部 今回の『アエラ』の記事には、地方の支部の方々が大変喜ばれました。母校は今も健在なのだと。

野田 本当に良かったです。先達のおかげ、今も頑張っている皆様のおかげです。今後も奢ることなく謙虚に継続的に頑張っていかなければ、と教授会でも話をしました。

綾部 11年前、学部長に就任の折のインタビューで、出来る限り校友会に協力、応援していくと約束して下さいましたが、本当に国内16の支部と海外三ヶ国の支部総会に、百回以上も出席して下さいました。

野田 そんなになりますかね。

綾部 十数名しかいない小さな支部総会ででも、一人一人と名刺交換をして、日芸の現状を詳しく丁寧に話して下さい、学部長自ずからが母校のパイプ役を務めて下さっています。



野田 毎年支部の方々とお会いするのが、私にも楽しみになりました。中には在校生の父母の方までご出席下さって、これは校友会のおかげですよ。

綾部 学部長が初めて取組まれた中で、やはり「日藝賞」というのは大きかったですね。あれは前々からお考えになっていたことですか？

野田 いや、学部長になる際に思い立った事です。各学科で個々には、以前から著名な先輩を招き講演をして頂く等ということが行なわれていたと思います。しかし、繋がりのある人が学

部にいなくなったり、恩師も亡くなったりして途切れるケースが多くなってきたように思いました。それならここいらできちんとした形で顕彰したらどうだろうか、思い立ちました。

綾部 今年でちょうど十年目ですよね。

野田 そうです。準備期間が一年ありましたから。

綾部 記念品はバカラのクリスタルで、賞金は一人百万円。当時としてはかなり思い切った額でしたよね。

野田 いや中途半端な金額にはしたくなかったのです。



綾部 今年授与された演劇の中村獅童さんなんか、お母さんが亡くなる前から、「是非獅童

に日芸賞を」と熱望されていました。もはや芸能人の目標にも。

野田 受賞された方々は、受賞後も客員教授をお引き受け下さったり、授業や広報活動にご協力頂いたりと皆様、バックアップして下さいます。

綾部 四年間を江古田という通年化も工事が始まるそうですね。

野田 『アエラ』で小山薫堂さんが話しているように、「多くの人に出会えてチャンスを与える場所」としての江古田、先輩後輩が直接交流でき、刺戟しあい、切磋琢磨する。そういう日芸を復活させたいですね。

綾部 通年化は校友みんなの願いです。

野田 日芸の先達たちが築いてきた土壌、そこから生まれた風土の中で、日芸生たちが学んでゆく時代がまた訪れる。その最終準備を私の最後の仕事として、次へと引き継いでゆきたいと思います。

綾部 実は、野田学部長へのイ

ンタビューはこれが最後となります。来年9月のお誕生日で四期十二年間が終了することになります。

野田 最近綾部さんからも私が疲れたと言うようになったと指摘されましたが、あともう一年、母校の為に持てる力を尽したいと思います。

綾部 本日はお忙しい中、時間を割いていただき、ありがとうございます。



まとめ 綾部東洋子
写真撮影 原 直久

第10回日藝賞記念講演

「映画は自分が帰る場所」

池松壮亮



6月22日、江古田校舎大ホールにて池松壮亮氏の記念講演が開催された。

池松氏の卒業制作を含む出演・制作作品の映像が流れる中、野田学部長と仲良く登場。講演会は齋藤学科主任教授と監督コース松島教授と交えた3人でのトークショー形式で始まった。

地元の福岡で劇団四季が「ライオンキング」を公演するときに、親の勧めでオーディションを受けたのがきっかけで俳優の道に進んだ。

その後、別のオーディションに合格して出演したのが映画「ラストサムライ」で小学6年の時だった。「ラストサムライ」でトム・クルーズとの共演シーンについて「これがなかったら俳優を続けていなかったと思います。でも僕、この時この人が誰か分かっていなかったんです」と池松氏。

本格的にこの世界で生きようと決

意したのは18歳の日芸に合格して上京した時。「上京するからには後には引けない。ちゃんと成果を出さないと家族や友だちに顔向けできない、と思いました。10代の頃でも仕事をやっていたんですけど、どこか本腰ではなくて言い訳が出来たんです。でも、そういうのをやめようと思って上京しました。」入学してからも俳優の仕事は続けていたため、出席日数はギリギリ。先生に演技コースを勧められる中、それでも監督コースを専攻し、学業と仕事との両立が大変な学校生活が続いた。

卒業後、さらに精力的に作品に出演を続ける池松氏。

そして、「紙の月」などで日本アカデミー賞、ブルーリボン賞など多数受賞した。「学生の頃の自分が聞いたら腹立ったと思うのですが、賞を

取っても関係ないんです。その頃は映画を撮った時から1年位経っているの、ああすればよかった、こうすればよかった、って後悔しかないんです。だから帰宅してすぐにトロフィーを隠しました。これに浸っていたら次に進めないような気がして。」

大学で映画を学び、映画に浸り、映画表現についてずっと考えてきたという池松氏。「俳優同士の空気の響かせ合いだけで大きなスクリーンでも伝わるはず。映画は自分が帰る場所と決めています。お芝居をする時、自分と向かい合う時が一番良い表情をする、と俳優は言われたいものです。相手の魅力を引き出し、お互いに高め合うような俳優でありたいです。」演技や監督など多方面からの質疑応答もあり、立ち見が出るほど満席の会場は大変盛り上がった。

「自分なりのルールを敷いて人生を切り開く」

中村獅童

7月1日、江古田校舎中ホールにおいて中村獅童氏の記念講演が開催された。宮澤誠一学部長の挨拶、原一平演劇学科教授の進行のもと始まった。

歌舞伎の名門生まれだが、父親（初代中村獅童）が子役の時に廃業し、歌舞伎界で父親不在の一般家庭と同じ扱いでこの世界に入った。大学進学の際、今の時代は歌舞伎役者も学歴は大切、沢山の友達を作ること大切だと祖母の強い勧めもあり、歌舞伎役者になれなかったとしてもアートに関わる仕事に携わりたいという気持ちで日芸に進学を決めた。

「19歳の時、父親が歌舞伎役者ではないので主役になれない、と言われた事があり、そこから考え方が変わりました。無理だと言われたルールを走るのはなくて、無理ならば自分な

りのルールを敷いて自分なりの人生を切り開いて、という意識が芽生えました。日芸で同世代のいろんな夢を持った友達と語り合い、歌舞伎を見たことのない同世代の友達と生まれて初めて授業で歌舞伎を見てレポートを書き、自分が子供の時から当たり前のように見てきた演劇を客観的にとらえ、将来は若者たちにアピールできるような歌舞伎役者になりたい、と思ったのが僕の学生時代。今思うとそれがとても良かったです。」

順風満帆で、と言われることがあるが、実際には歌舞伎でも俳優の仕事でも中々役がもらえず、不遇の時代が続く。そんな中、オーディションで勝ち取ったのが映画「ピンポン」のドラゴン役だった。この役で新人賞などアカデミー賞など含めて5つ受

賞した。この時30歳だった。

自分は紆余曲折があったけれど、いつも正してくれるのが、そばに歌舞伎と言う演劇があって、役者という仕事があったから、と獅童氏。

「嬉しいことがあっても悲しいことがあっても、みなさんの前に立たせて頂いて笑って頂いたり、泣いて頂いたり、たとえ体調が悪くてもプロとして立っていかなくちゃいけない。それだけ、自分が人生を掛けて打ち込むことのできる仕事に巡り合えたというのは本当にラッキーだったな、と思います。」

この後、時間を延長しての質疑応答も活発に行われ、獅童氏からの真摯な回答をしていただいた。学生にとって学ぶものが多い時間となったことだろう。



平成28年度校友会総会

平成 28 年度日本大学芸術学部校友会総会が6月18日(土)午後5時より E101 教室にて開催された。

総会は綾部会長の挨拶、続いて議長に小泉常任幹事(写 41 卒)、副議長に南岡秀男氏(写 46 卒)、書記に西垣常任幹事(写 58 卒)を選出、議事に入った。議長より会則 10 条により会は成立する旨の報告があった。

会務報告(三戸常任幹事・総務代理)、決算報告(宮澤常任幹事・財務)、監査報告(箭内監事)、予算案審議(宮澤常任幹事・財務)へと進んだ。八木信忠氏の推薦による、山崎芳彦氏の推薦校友会員の申請があることを奥野常任幹事より報告があった。また、綾部会長より愛知江古田会設立と校友会より熊本地震の義援金5万円を熊本江古田会に送金したことを報告。

いずれも原案通り拍手をもって承認された。また、校友会事務局員の北嶋氏が来年3月で定年となり、

後任として星野氏(音 H5 卒)が4月より就任したことを原副会長より報告があった。

引き続き学生食堂にて懇親会に入った。

司会進行は原一平常任幹事(演 49 卒)にお願いした。綾部会長の挨拶、三垣理英子氏(院 20 卒)、干場文夫氏(音 50 卒)石川江古田会幹事による日大校歌斉唱。

引き続き野田慶人学部長の挨拶と乾杯で懇親会が始まった。会の途中で江黒俊弘日本大学校友会本部事務局次長のご挨拶、推薦校友の山崎芳彦氏のご紹介があり、その後はアトラクションが続いた。院 20 卒で現在芸術資料館勤務の三垣理英子氏による歌の披露や飛び入りでシャンソンあり、劇団員の挨拶などもあり大変盛り上がった。

学内執行部、課長職以上の皆さんにもご出席いただき、楽しいひと時を過ごした。

平成28年度(2016年度) 予算

収入之部		
勘定科目	摘 要	金額(円)
本部よりの会費	4,000円×4,000人=16,000,000	16,000,000
校友会幹事会費	5,000円×300人=1,500,000	1,500,000
雑 収 入	総会懇親会会費・新年顔合わせ会費等	900,000
収入利息		20,000
定期預金取り崩し		10,590,000
合 計		29,010,000

支出之部		
勘定科目	摘 要	金額(円)
総 会 費	懇親会	260,000
諸会議費	常任幹事会・諸会議	230,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・コピー用紙・茶封筒 他	10,000
事務用品費	コピー機リースの使用料・プリンターインク・コピー用紙 他	70,000
通 信 費	会報発送(在校生・卒業生)総会・会費請求切手 他	5,000,000
補 助 費	学科同窓会・幹事会・総会・芸術祭・卒業生を送る会・支部補助(20支部×5万円)支部出席祝儀	1,500,000
寄付分担金	本部校友会分担金・日本大学創立130周年記念事業募金・スポーツ振興会	450,000
印 刷 費	会報・総会・幹事会・終身登録費請求書 他	2,000,000
人 件 費	事務局員給料・アルバイト代・人材派遣	7,000,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	1,130,000
旅 費・交通 費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	1,840,000
租税公課	利子税	10,000
活 動 費	学生諸活動支援・バッジ、ストラップ	200,000
備品維持管理 費	メンテナンス及びホームページ改良・コピー機リース (21,824円)	300,000
本部役員会 費	年会費(本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万)	170,000
交 流 費	新年会・他学部支部交際	1,000,000
業務委託費	中間・決算・期末決算	160,000
雑 費	会報取材費・貸金庫代・スタジオマイデザイン料 他	400,000
支払手数料	銀行支払い手数料など	30,000
特別会計	事務局員退職金(校友会内規第4章第19条)	7,250,000
減価償却費		
合 計		29,010,000



今年度より校友会事務局勤務となりました星野祥子(音楽平成5年度卒)です。どうぞよろしくお願いいたします。



皆さん今日は！

平成28年度総会返信の近況報告を掲載いたしました。無断で掲載させて頂きましたことお詫びいたします。(順不同)()内は学科卒業年度です。

●赤野眞(専門部20年度卒)

90歳を一つ越えて来年は92歳か。どこまで続くわが人生。季節はずれの夏の日の下で「おーい、お前は何处までいくんだよ」

●西谷隆夫(専門部23年度卒)

普通に元気に暮らしています。87歳です。

●日高勝彦(写真33年度卒)

超軽量動力飛行機を組立てて飛んで15年。現在茨城県霞ヶ浦ビッコロ飛行場(元鹿島海軍航空隊跡地)で水陸両用機に改造して飛んでいます。興味のある方は遊びに来て下さい。

●精園喜昭(写真41年度卒)

非公式ながら40年にわたり28回開催されてきた「名古屋江古田会」がこの度「愛知江古田会」として正式に発足する運びとなりました。9月10日に第一回の総会が開催されますので皆様のご参加をお待ちしております。

●奥村隆志(写真43年度卒)

熊本地震に対して校友会から多額の義援金をいただき感謝しています。7月2日の総会で報告し、使用方法を話し合います。ありがとうございました。

●玉井隆昭(写真55年度卒)

写基礎と言えは写真学科の看板授業。そして当時、担任の先生的存在だった松田先生。焼き上がったプリント修正のスポッティング状態や作品の出来栄に眉をひそめてチェック。そしてすばやく合格のサインを頂くのが一連の流れでしたが、今でも思い出すシーンです。その松田先生が今年定年を迎えられたとの記事を押見しました。一つの節目かと思

いますが、これからがスタートライン。松田先生のこれからのご活躍を期待し、私も先生の背中を見て生涯現役を貫きます。

●澤野新一郎(写真58年度卒)

昨年に引き続き、南アフリカ共和国観光大使として映像を通した観光産業発展に貢献させて頂いています。また、サンフランシスコ州立大学での個展及び講演会を企画進行中です。

●樋口幹夫(映画28年度卒)

私88歳になります。出歩きが億劫になりました。総会欠席します。後輩たちの活躍ぶりに私も日芸で学んだ喜びを持ち続けております。

●山下文雄(映画36年度卒)

毎度会報拝見いたしております。小生民放テレビ局を引退後、同志と二人三脚で自由律俳人・山頭火の足跡を追って九州四国山口などを巡り、映像化・DVDにして出前上映会を行っております。尾崎放哉、井上井月もDVD化しました。

●渡辺公夫(映画39年度卒)

今、私は老いて日々是好日(事務所の皆様、いつもご苦労さまです)。円空仏像の研究と仏造彫約50体(円空仏像研究会・千葉円空仏研究会代表)、江戸流千葉手打ちの蕎麦会初段(会員)、千葉そば大学(学士・7月卒業)

●岡田照男(映画44年度卒)

福島原発事故以降の生き方を模索中です。消費者から生活者への変換を必須条件としての選択でもあります。

●塩村彩(映画平成19年度卒)

伴美彩(ばんび・あや)という講師名で“バンビーズマナー”というマナースクールを主宰しています。こ

の度PHP研究所から『思わずYESと言いたくなる気配りのコツ』という本を出版いたしました。全国書店やAmazonでチェック頂けると光栄です!!!

●松岡義和(美術34年度卒)

3月にて78歳。地元北見市の日赤北海道大学で今も非常勤講師として、1年「人間と芸術」2年「ことばと文学」を教えています。これもひとえに芸術学部で学んだお陰です。

●稲垣進一(美術35年度卒)

2月16日に恩師デザイン学科教授の中井幸一先生の白寿(99歳)のお祝の会を有志で行いました。来年百歳のお祝は盛大に催したいと思います。

●橋本清一(美術35年度卒)

いい年をして、パリのアトリエとこちらのアトリエで一生懸命制作しております。個展と公募展に追われて毎年がんばっております。卒業生として、とにかくはやっているよ!!と言いたくてメモしました。

●椎橋幸夫(美術43年度卒)

昭和39年より趣味として51年間自然石のコレクションをやってきました。主に関東周辺の川にて採石!夢は全国の川に採石旅行をと思っています。自宅別室に約1000石を所蔵したくさんの友人と日々楽しんでいきます。

●千北正(美術52年度卒)

5月14日(土)に昭和39年度卒から平成25年度卒の建築インテリア、住空間デザイン、建築デザインの合同同窓会を日芸学食をお借りして実施することが出来ました。総勢100人を越えるOB、OGが参集し縦糸と横糸

が織りなす素晴らしい会となりました。バウハウス出身の故・山脇先生の基、空間系デザインの伝統と層の厚さを強く感じました。

●安東保(音楽28年度卒)

校友会報なつかしく読んでいます。都の教員定年退職後20年、あつと言う間の人生、庭の手入れに追われています。夏野菜の収穫、芝の除草、植木の剪定、消毒・除虫散布、挿し芽・挿し木作り、忙しくしています。

●清水啓子(音楽54年度卒)

引越しました。孫も3人、8月には4人目が生まれます。江古田が懐かしいです。私の青春でした。

●筋田典代(音楽58年度卒)

こんにちは。ずーっと夢だったオーケストラの指揮者になりました！オーケストラは自分で発足させましたが…。みなさんもがんばって下さい！

●武者裕子(音楽平成3年度卒)

4月より新宿区の中学校に戻りました。18～10年前に在籍していた区内の中学校で演奏していたことを現在の学校の部活の保護者が覚えていて下さり、今や部員です。ご縁というものを日々感じています。それだけ長く教員をしているのだな…。とまたフレッシュな気持ちで頑張ります。

●江森圭太(音楽平成27年度卒)

家業を継ぐため僧侶の修行中です。体は疲れていますが心はとても健康です。

●福山千代美(文芸40年度卒)

新しくなった母校での同窓会参加、所用がありうかがえず残念でございます。来年の参加楽しみにしております。校友会のますますのご発展お祈り申し上げます。

●中村敏子(文芸56年度卒)

昨年1月に社会福祉士の資格を取

得、福祉の現場での経験がないので、昨年7月より放課後等デイサービスで非常勤勤務をしています。結婚以来続いている介護も27年目に突入します。

●古谷康子(文芸57年度卒)

遠く北海道の小さな町から会報が届くたびに江古田を思い出しています。わが子が只今東京で大学生活を送っています。教育費の山を乗り越えたら、同期の仲間を誘って、総会やら懇親会に参加したいです。

●野口歩(文芸平成15年度卒)

文芸学科に入学した時のゼミ生同志で結婚しました。芸術学部生らしくない職業ではありますが、本学で学んだことは十分に生かされています。(主人は介護、私は保育士をしていました)

●岡部麻優美(文芸平成15年度卒)

文芸とは全く関係のない教育関連企業に就職。高校生の進路選択のお手伝い&大学や専門学校の広報活動のフォローをしています。昨年開催した進学イベントに日芸が出演していたのでごあいさつに行ったところ、文芸希望の高校生に学科説明する機会をいただきました。全く違う道に進んだと思っていたけれど、母校とつながっている感覚になんだかびっくりです。

●亀井俊一(演劇37年度卒)

昨年12月に文化庁長官賞を戴きました(能楽部門)。今まだ舞台に稽古にと体に合わせてやっています。皆様に宜しく。

●野口芳子(演劇39年度卒)

卒業して54年。学生時代は遠い過去となりました。でも、75歳の今も8人程の老人劇団に入って楽しんでいきます。終着駅が近づいていますが、一日一日を最後の人生と思って楽しく

生きています。若い皆さん、いっぱい夢を持って生きてください。うらやましいかな～？

●今井清美(演劇48年度卒)

東日本大震災から6年目の春、65歳の私は友人の誘いで被災者生活支援センターの職を辞し、地元建設会社に総務部長として入社しました。支援センター在職中の校友の皆様からのご支援に対し心からの感謝を申し上げます。未だ復興半ばではありますが今度は建設業に関わりながら新しい南三陸町を皆様と共に見ることが出来るよう願っています。ありがとうございました。

●井上弘美(演劇50年度卒)

2004年に早稲田大学修士課程に入学。これを機に京都府立高校を退職し、現在東京在住。4年前に俳誌「汀」を創刊主宰し、大学やカルチャーで俳句を教えつつ創作活動をしています。今年3月に『俳句日記 顔見世』を上梓(ふらんす堂)致しました。「汀(みぎわ)俳句会」のHPをご覧くださいけると嬉しいです。

●石井智子(演劇平成元年度卒)

今年10月22、23日にシアター 1010にて、石井智子スペイン舞踏団公演「ロルカⅢ ～タマリット～」を上演します。スタッフや出演者として、演劇学科の先輩、同級生にもご協力いただくことにもなりました。年に数度はスペインにも渡り、自分の踊りの研鑽にも励んでいます。

●佐野昭夫(放送41年度卒)

会報96号の記念対談を読んで在校当時の江古田界隈が思い出された。都電が次々に姿を消し東京オリンピックで沸いた頃だった。田舎からポッと出の若者には何もかもが驚きの毎日。卒業後も学友と何度か会合をもったが、徐々にメンバーも減っ

て行く。ふと寂しさを覚える。

●清水忠夫(放送44年度卒)

毎年校友会報楽しみにしています
が…年齢いくにつれ、在学当時の紛
争で1年余の教室閉鎖等、その時代、
今の学生は日芸の歴史を知っている
のか？…芸術的な広報で入学&在
学の人に知らせして欲しいです…年
寄りの冷や水(笑)

●菊池純子(放送45年度卒)

いつもお世話を頂きまして有難
うございます。九州に帰って30年。
豊かな緑に囲まれゆったりと自分

の時を育んでいます。夫の両親、私
の両親も見送り、その両親の年齢の
方々の健康のための太極拳教室を
開いて10年です。書の個展も10回を
超えました。日芸卒業生として今後
も頑張ります。

●小川忍(放送45年度卒)

民放出身者(OB)で作る“民放クラ
ブ”の北陸地区組織の事務局長を務
めています。系列を超えた人々の出
会いが楽しいです。

●宮崎健一(放送47年度卒)

熊本(大)地震に遭遇!!生命には

別状はなく有り難く当地で元気に現
役続行中(66歳)です。全国からの暖
かいご支援に感謝いたします。“がん
ばるばい熊本(クマモン)ガンバロー
九州”

●村松みさき(院平成24年度卒)

お世話になっております。脚本家
として活動しています。自身が脚本・
演出を務めるプロデュース舞台は今
年で10年目を迎えます。俳優として
も今年は2本の主演が決まっていま
す。日大の益々の発展をお祈り申し
上げます。

福岡江古田会 野坊図が会長職に

5月21日(土) 於:平和楼

三年に一度の役員改選で美野田会
長が辞意を表明。逃げ足の遅い私に
お鉢が回ってきました。総会前の打
合わせ当時、ぎっくり腰を患い、早く
終わらせたい思いから、わたくし飛
嶋慶一が会長職を受けることになり
ました。美野田さんは福岡江古田会
発足当初から幹事長そして会長と長
年に渡り、多岐に手ぬかりなく懇親
を深めていたので、私のような東京
育ちの野坊図が会長職に就くことが
危ぶまれますが、皆さまの協力のも
と頑張りたいと思います。今後よろ
しくお願いします。

さて、5月21日、天神・平和楼で福
岡江古田会総会を行いました。野田
学部長、綾部校友会会長ら、東京、熊
本、佐賀、長崎、山口と遠路遙々駆け

つけてくれました。特に熊本からは地
震の続く中、来福を頂きました。今年
は、アート展をお休みした関係か、総
会出席者の人数が前年の32名から19
名と出航早々荒れ模様。まごまごう
ろたえながらも、無事総会が終わり、
懇親会で綾部さんから「飛嶋会長の
もと、福岡江古田会を盛り上げて下さ
い」と激励の言葉を頂き、飛嶋会長と
初めて呼ばれて実感が湧いてきました。
プレゼント交換会では、熊本の美
味しい焼酎「紅福」をゲットしました。

今年度から「元気で、楽しく、九州
は一つ」と九州江古田を立ち上げま
した。アート展を軸に「現役はより厳
しく。OBはより楽しく。」と芸術と
はなにかを考えるアート展を企画
したいと考えています。会場確保が

最大の課題ですが、毎年行って来た
アジア美術が最適と、7月の抽選そ
して9月の発表に臨みます。会場確
保の折には、各江古田会の応援のも
と、九州をはじめ各江古田会から多
くの作品を集めたいと思います。頭
の上に殻を乗せた「ひよこ」ですが、
今後も皆さまの協力をよろしくお
願います。

会長 飛嶋慶一(写真44卒)



福岡江古田会の新役員紹介



会長:飛嶋慶一
(S.45年写真学科卒)
血液型O型
東京から移り住んで8
年目。やっと福岡の
「ふ」が分かり始めた
ヒヨコ♥です。



幹事長:山田重寿
(S.36年写真学科卒)
血液型A型
無理やり幹事長にさ
せられました。未だ独
身の万年青年。遅咲き
ですが、頑張ります。



副会長:岩永 隆
(S.39年文芸学科卒)
血液型A型
あだ名は「ガンちゃ
ん」。痛で胃を切り、胃
は無いが、なぜか胃が
長い、イワナガです。

ふくしま江古田会第8回総会

5月28日(土) 於: 姑娘飯店

平成28年度の通常総会が5月28日(土)郡山市駅前陣屋通り「姑娘飯店」で開催された。

会員19名をはじめ来賓として野田学部長代理の原一平演劇科教授、綾部東洋子校友会会長、日大校友会県支部から森栄一支部長が出席された。

平成27年度の事業報告や決算報告を了承したあと、28年度の事業計画を承認。第2回アート展を成功させようと申し合わせた。

最後に原教授から母校の現況を拝聴し、総会を終えた。

引き続き懇親会に移り、新会員2名が紹介されたあと乾杯となり時の過ぎゆくまふ談笑が続いた。

ところで、6月1日から5日まで開催された「ふるさと再生・第2回アート展」は油彩やガラス絵、写真、彫刻等54点が会場を飾った。入場者は500

人をこえた。そして、一隅に設けた日芸入学案内コーナーでは山積みにした願書や冊子等の資料は最終日には残部ゼロとなり、来春の応募者増に期待を膨らませた。



●第2回アート展 盛況

大震災と原発事故被災地の福島から芸術を通して元気を発信しようと昨年に引き続き第2回アート展を6月1日から5日間郡山市で開催した。

油彩、水彩、写真、彫刻、デザイン、版画など67点が展示され、期間中500

名を超える入場者で賑わった。

作品募集の呼びかけで参加を申し出た3名が新たに会員名簿に登録され、会員増に繋がった。

さて、母校の案内コーナーではパンフレットを手にする人達が多くみられ、山積みされた学校案内や入試資料は全て無くなるという珍?現象が生じた。これが来春の募集につながることを祈った。

会長 島崎恒夫(映画31卒)



高松ゆたかさんの油彩「チャグチャグ馬子初詣」が全面を飾る

鹿児島江古田会平成28年度総会

5月28日(土) 於: ホテルレクストン鹿児島

5月28日<土>に、鹿児島市のホテルレクストン鹿児島で、鹿児島江古田会の平成28年度総会が開催されました。野田慶人藝術学部学部長と宮澤誠一学部次長、さらに福岡江古田会の飛嶋慶一会長、熊本江古田会の川村晃生事務局長にもご出席いただき総勢13名の盛大な会になりました。

総会では、中野順会長の挨拶や鹿児島江古田会のこれからの発展の鍵を握る30代、40代の新役員の紹介に

続き、校友会本部から贈呈された鹿児島江古田会の旗を囲み全員で記念撮影。その後の懇親会では、鹿児島ご出身で昨年に引き続きご出席いただいた野田学部長を中心に江古田の街での数々のエピソードや、江古田・所沢キャンパスでの思い出話に花を咲かせました。

また、会員の近況報告では、陶芸家として活躍している荒木秀樹さんが秋田県で展示会を開催した際に、秋

田県在住の藝術学部OBで秋田テレビ取締役の藤沢朗さんのご協力により広報活動などが充実。多くの来場につながり感謝したというエピソードの紹介もありました。

鹿児島江古田会としてますますの発展はもちろんですが、他県の江古田会との連携が生み出す、日藝パワーを感じた総会になりました。

常任幹事 羽山貴浩(放送H8卒)



第17回宮崎江古田会総会開催

6月4日(土) 於:杉の子

平成28年6月4日に第17回宮崎江古田会総会・懇親会が宮崎市のあるさと料理「杉の子」桃太郎の間で開催され、県内より11名の校友が集った。まず27年度会計報告、28年度事業計画が承認され、続いて福岡江古田会常任理事の美野田肇氏より九州江古田会の発足、九州アート展への参加協力を頂きたいとコメントがあった。懇親会では県外から野田学部長、綾部校友会会長が1年ぶりにご参加頂き又、美野田福岡江古田会常任理事、昨年再発足の鹿児島江古田会中野会長、堀之内事務局長のご三名は宮崎に初めて来訪されたとか、宮崎江古田会として大変嬉しく思った。都合、計16名が集い記念撮影を行い、懇親会が始まった。野田学長からは朝日新聞出版6月6日発行の「AERA」(アエラ)に早稲田大学(政経

学部)慶応義塾大学(医学部)中央大学(法学部)日本大学(芸術学部)同志社大学(神学部)が日本の有名私大「最強の学部」として紹介されたという報告。記事の中で学部長は「違う才能同志が日芸で出会い化学反応が起こる。隠れていたセンスが光り始めるのです」と語っておられた。又、取材で出会った全ての日芸学生が自らを「日大の〇〇」ではなく「日芸の〇〇」と名乗り、プライドを秘めたカッコいい集団だと。最後に学長は「とても光栄で嬉しい事です。これも皆様のご支援、ご協力の賜物で感謝します」と挨拶を結ばれた。そこで校友皆感動と拍手が沸き立ち喜ばしい限りであった。乾杯を中野鹿児島江古田会会長にお願いし、懇親会のスタート。また、杉の子女将より貴重な焼酎「魔王」がプレゼントされビック

リ、美酒で存分に喉を潤した。更に、恒例の3分スピーチでは近況報告などがあり、その中で驚いた事に鹿児島江古田会中野会長とは20年ほど前一緒に仕事をしていた仲であったとの事、世の中狭いと感じた。ビンゴゲームなどもあり語りつきなく終演。最後に井戸川順一氏(放送39年度卒)の万歳三唱でとどろきなく終了。二次会へ移動となった。日芸で学べて本当によかった!!

会長 後藤欣久(美術44年卒)



山形江古田会総会

6月11日(土) 於:山形グランドホテル

新緑が輝き、例年より早く「さくらんぼ」の収穫が始まった山形市。11日は、6月としてはたいへん暑く、気温31℃。少し涼しくなった夕方から、芸術学部校友会山形県支部(山形江古田会)の平成28年度総会が、山形グランドホテルで開催されました。

来賓として、野田慶人藝術学部長、綾部東洋子藝術学部校友会会長、伊藤剛日本大学校友会山形県支部支部長の方々をお招きしました。会員18名の参加と、在学生父母の参加もあり、賑やかに開会しました。来賓祝辞と紹介に続き、事業・会務報告、会計決算報告、監査報告があり承認されました。次に、役員改選に入りました。支部長の横倉晋也(美術・昭和52年度卒)が再任され、新幹事長の井澤聡(放送・昭和62年度卒)を始め、

幹事・監事が原案通り承認されました。その後、事業・会務計画案・予算案が承認され、総会は例年通り迅速に閉会しました。

引き続き、同会場で皆さんお待ちかねの懇親会が開会しました。日本大学校歌斉唱から始まり、来賓祝辞に続き、須藤一之(放送・平成2年度卒)前幹事長の乾杯の音頭で懇親に入りました。今年も又、1名の新参加者があり、参加者平均年齢がとても低くなりました。世代を越えた「日芸」の強いつながりに「江古田」の街への思いが重なり、温かい会場になりました。

後半になり恒例の会員近況報告、1分で終わらない「1分間スピーチ」の開始です。今年も又、井澤聡新幹事長の絶妙な司会により、たいへん盛り

上がりながらもちょうど良い時間に収まりました。平成年度卒業の会員参加も増えて、楽しく、明るく、元気よく、会は進行しました。時間の速さを感じながら、井澤聡新幹事長の正調「山形花笠締め」で中締め閉会となり、ほとんどの参加者が二次会へと進みました。そして三次会へ四次会へと、山形の夜は更け、やがて日付は変わってゆきました。

支部長 横倉晋也
(美術・昭和52年度卒)



31回目の熊本江古田会総会は7月第一土曜日の2日に熊本市内のホテルで開きました。今年は4月に熊本地震が発生したこともあり、開催するかどうか悩みましたが、こんな時こそ開くべきとの意見が多く開くことが出来ました。今年も野田学部長、綾部校友会会長それに九州の各江古田会など19人の来賓の方と会員あわせて31人が出席しました。みなさん顔をあわせると「大丈夫だった」とまず地震の話が挨拶がわりで総会は始まりました。

総会では去年の30周年記念展について報告などを行いました。そして、懇親会では野田学部長が地震についてのお見舞いの言葉のあと、学部の近況について述べられました。綾部会長には熊本を励ます言葉を添えて乾杯の発声をいただきました。この日の出席者は重苦しい地震のことも忘れて、楽しい夜を過ごしました。二次会はデザイン学科卒の兼城哲也さんのレストランで、これもまた賑やかな時間を過ごしました。

ところで今回の熊本地震の発生

で、学部有志の方々や校友会、それに各江古田会から心のこもった義援金などをいただき、会員一同感謝しています。また全国の同窓の人たちから励ましの電話やメール、お手紙をいただき有難うございました。

熊本江古田会 奥村隆志(写真43卒)



平成28年度佐賀江古田会総会

7月3日(日) 於:旅館あけぼの

第15回の佐賀江古田祭り(芸術学部校友会佐賀県支部総会)を、7月3日(日)、佐賀市の旅館あけぼので行いました。

総会には、前日の熊本江古田会に引き続き、野田学部長、綾部校友会会長、熊本江古田会の奥村会長と川村さん、福岡江古田会の飛島会長、鹿児島江古田会中野会長の出席をいただき、賑やかに開催することが出来ました。

今回は、例年のように週末の夜では、仕事等の関係で参加出来ない会員も多いのではと、初めて日曜の昼間の開催となり、当初はどうなることだろうと心配していましたが、2名の初参加もあり、昨年より多い会員が集まる事が出来ました。また、初参加の一人の大橋さん(放送S53卒)のご子息も、この春文芸学科に入学、佐賀では

田中さんに次ぎ2組目の親子会員の誕生です。

尚、佐賀江古田会は、来年が再スタートから20周年を迎えます。また、会長も音成から光野(旧姓・北島、映画S41卒)にバトンタッチし、会員一同20周年に向けさらに元気に頑張っていきます。

ということで、昼間の開催ということで心配しましたが、最後に、野田学部長と綾部会長を出席者全員でお見送りが出来たのが何よりでした。また、丁度佐賀で「ピカソ展」が開催されており、熊本のお二人と鹿児島の中野会長は、早速、会場に足を運ばれていました。

雑談になりますが、佐賀と言えば音成会長の「佐賀にわか」を楽しみっていう声が多かったのですが、「会長は

譲っても、芸は譲らない」(本人談)と、この日も披露。やっぱり、佐賀江古田会は音成さんでした。

最後に、音成さんの「佐賀にわか」を一席。

あるセレブなご婦人が絵画展の会場で、

「これがルノアール。素晴らしい色使いね～」

「まあ～、これがセザンヌ。見事なタッチね～」

「まあ～、これがピカソ」

すると、案内の係員が、

「そこは、鏡ですが…」

猛暑の中、お越しいただきました皆さまに改めてお礼申し上げます。

また来年お待ちします。

事務局 土井洋(写49卒)



長野江古田会総会

7月9日(土) 於:松本駅前会館

清涼な気候が特徴の信州も、今年は非常に暑いと感じる日の多い夏を迎えました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

去る、7月9日松本市において、長野江古田会の総会を行いました。会長に三浦博之(放送学科 1974年卒)が就任して初めての総会。雨が降る中、長野県内各所、遠くは東京からも会員の皆さまにご参加いただきました。総会では、「多くの会員(特に若い世代)とコミュニケーションの取れ

る機会をもっと持ちたい」「校友会員が相互に連絡の取れるような基盤の整備を」など様々な要望もあり、事務局の方で考えていきたいと考えております。また、懇親会には野田学部長、綾部校友会長をお迎えし、信州の料理を囲みながらいろいろとお話をさせていただきました。大変に充実したものとなりました。最後になりましたが、ご参加いただきました皆さま、ありがとうございます。

事務局 松沢 彩(放送H16卒)



宮城江古田会総会

7月16日(土) 於:仙臺花寅

平成28年度の宮城江古田会総会・懇親会は、7月16日(土)、梅雨空の仙台市一番町「仙臺 花寅」にて、野田慶人学部長、綾部東洋子校友会会長、深松勇校友会宮城県支部長をお招きして行われました。

総会の部では27年度の活動報告・会計報告、28年度の活動計画や予算などが議題となり、すべて承認されました。再来年7月に宮城江古田会設立30周年「アートフェスティバル・東北」を開催するための準備もそろそろ始まります。20周年に行われた

前回同様、会員の皆様のご参加・ご協力が成功の鍵となります。また、東北各県の江古田会の皆様にもご協力を賜りたいと願っております。何卒よろしくお願いいたします。

そして懇親会の部。この日実は、酒井健樹事務局長(放送52)のお誕生日ということで花束贈呈のサプライズがありました。さらに前日が依田掌初代会長(映画32)のお誕生日ということが発覚し、何ともおめでたい雰囲気。会員の近況報告では大病から復帰したお話、学生時代の懐かし

いお話、演奏会のPRなどバラエティに飛んだ…いえ、富んだ話題で盛り上がりました。

お店の外はそぼ降る雨。しみじみと味わい深い夜でした。

放送H4卒 佐藤 円



石川江古田会総会・懇親会・研修会

7月23日(土) 於:ANAクラウンプラザホテル金沢

昨年発足した石川江古田会の第2回の総会・懇親会が7月23日にANAクラウンプラザホテル金沢にて開かれ、1周年を祝うとともに再会を喜び合いました。

総会では1周年を迎えた北陸新幹線の勢いとともに、石川、金沢の芸術文化へのさらなる貢献を誓い合いました。

懇親会では綾部東洋子校友会長、

宮澤誠一学部長(映画学科教授)にご祝辞をいただきました。綾部会長はお祝いの言葉とともに「楽しみながら末長く活動を」と指針を示されました。宮澤教授は、かつて石川

県の文化記録の撮影に何度も通った思い出を紹介、日芸と石川県の縁の深さを語られました。

懇親会に先立つ研修会として、新入会された昭和58年美術学科卒の画家・西房浩二氏に、絵画制作秘話を講演いただきました。

現在、石川県能美市在住で、光風会、県芸術文化協会などの理事を務められ、精力的な創作活動のほか、絵画教室などでの指導にも力を注がれています。

講演では、海外の港町を描いた風景画が完成するまでの過程を写真を交え詳細に解説いただきました。

描く風景を撮影した膨大な枚数の写真から空や建物など部分ごとに良い状態を選び、キャンパス上で現実にはその場で見られなかった理想の風景を再構築する手法も紹介され、会員は作品と写真を見比べながら熱心に聞き入りました。

興味深いお話をいただいた後は乾杯です。在学中に帰郷の度通った金沢駅から遥かに煌びやかさを増した現在の駅前を眼下に望みながら、それぞれ近況や思い出話に花を咲かせました。話も尽きないうち閉会時間を迎え、音楽学科OBの指導のもと声を合わせて日本大学校歌を歌い上

げ、1年後の再会を期して閉会となりました。

また、会の模様は地元新聞の取材を受け翌日朝刊に掲載されました。

幹事 干場文夫(音楽50卒)



北海道江古田会総会

8月6日(土) 於:札幌 東急REIホテル

平成28年度の北海道江古田会総会・懇親会が、8月6日(土)午後6時から、札幌東急REIホテルにおいて、会員、来賓、合わせて29名が出席して盛大に開催されました。

今年は、特別ゲストとして、現役の放送学科3年の溝渕咲希さんが出席して挨拶をいただき、会場はいつになく明るい雰囲気になりました。

芸術学部からは、今回初めて田上竣詞校友会副会長、野田慶人学部長をはじめ、道内日大の各支部長の出席をいただきました。

総会では、変形性膝関節症手術の為、約2ヶ月間入院していて、ギリギリ前日退院した、氏家支部長が車いすで挨拶した後、原議長のもと、総会が進められ、斗澤会計幹事より諸案が説明され、満場一致で承認されました。

成田フォトサービスの記念写真撮影の後、56年音楽学科入学の山上淳子幹事の総合司会により、懇親会が始まりました。

来賓挨拶では、田上副会長より校友会の新しい支部の紹介や、活動などの現状について、野田学部長からは、芸術学部が雑誌で紹介されたことや、芸術学部の今後の取り組み等について、お話をいただきました。

札幌日本大学学園理事長の浅井徹様の乾杯で、宴会が始まり、46年写真学科入学の原俊彰幹事長が、毎年恒例になった、手品を披露し、会場は大いに盛り上がっていました。

ビンゴゲームでは、高額商品券など豪華賞品に加え、札幌テレビ放送グッズ、北海道放送のもんすけグッズ、北海道テレビグッズ、また、今年も出席できませんでしたが、函館湯の川プリンスホテルの河内孝善幹

事から、景品が届くなど、最高の盛り上がりの中、宴会が行われました。

また、毎年評価の高い、素晴らしい校歌斉唱も披露されました。

楽しい時間は、瞬間に過ぎ、日本大学校友会札幌支部長の、加藤欽也様の締め乾杯で、お開きとなりました。

また来年、元気で皆様と再会できることを祈っています。

北海道江古田会会長

氏家曹一(放送学科49年入学)



岡山江古田会総会

8月23日(火) 於:アークホテル岡山

日本大学藝術学部校友会の綾部会長と宮澤先生にご列席頂き、平成28年度総会を8月23日にアークホテル岡山にて開催しました。現役学生の森上君(写真学科)も含めて総勢18名集まりました。

校歌斉唱・会長挨拶・来賓挨拶・会計報告などの後、集合写真。

つづく懇親会では、乾杯に続き、各自の近況報告などでわいわいと盛り上がりました。

最後に来年の作品展の構想など会長よりお話がありました。

限られた中、なかなか増えないメンバーですが、岡山の現役学生も十数名いるとのことで、ぜひ次回は参加して頂き、さらにこの会が盛り上がっていくことを望みます。

今回参加出来なかった富岡葉々子さんから差し入れの「八海山」をみん

なで廻し飲み、飲み放題のホテルのアルコールが減らないという状況でした。



岡山江古田会作品展

第4回岡山江古田会作品展を2016年6月14日～6月19日の間岡山天神山文化プラザで開催致しました。

出展者19名の作品と今回初めて、写真教室を同時開催致しました。校友会から送って頂いた資料を配布

しながら、日芸のPRをし、作品についての説明やら、楽しく接遇しました。

打ち上げでは、今後の作品展の進む方向や、岡山江古田会の拡大についておいに盛り上がり、語り合いました。

最後に、今回の作品展に、熊本江古田会よりお花を頂き、この場をお借りして、お礼申し上げます。

ありがとうございました。

幹事長 藤井一也(文芸53卒)



愛知江古田会設立総会

9月10日(土) 於:キャッスルプラザ

男女7人の幹事団による2年間に亘る検討と準備作業の末、愛知に新しい江古田会が誕生しました。

芸術学部校友会愛知県支部の設立総会は、平成28年9月10日名古屋駅前キャッスルプラザで、来賓5名、会員34名の計39名出席のもと開催されました。

総会は佐枝一史幹事(放送S47年度卒)の司会で進められ、まず幹事団から推挙された藤田勝支部長(演劇H9)、成田拓夫副支部長(文芸H7)、土岐洋子会計監査(演劇S53)の支部各役員候補が、満場の拍手で承認さ

れました。

就任したばかりの藤田支部長による冒頭挨拶のあと、来賓の野田慶人学部長から新江古田会発足祝いの言葉、江古田校舎への一元化構想、学部の抱える課題など、卒業生には興味深いお話をいただきました。また綾部東洋子校友会会長は、この愛知は国内外合わせて20番目という切りの良い江古田会発足となること、女性の出席者の多さが素晴らしいという祝辞をくださいました。

総会に続き成田副支部長の乾杯発言で懇親会に移りました。途中、遠路

はるばる出席してくださった宮城、鹿兒島、熊本支部の桑折洋一、坪内一樹、川村晃生の各氏からも祝辞や土産をいただき、会員一同大感激でした。

開会時整然としていた席順は時間を追うごとに混沌状態、数人での立ち話姿も見られ「久しぶり」、「初めまして」の会話があちこちから聞かれました。

この新生江古田会、実は長いプロローグがあったのです。今から30余り前、当時広告会社名古屋支社長だった林敏彦氏(放送S39)の提唱の

もと、名古屋江古田会が産声をあげました。発足以来「何事にも束縛されない」をモットーに、校友会非公認で気ままに会を開き、登録会員も60名を超えていました。平成25年5月に第28回の定例会を開催したあとの同年11月、何と林氏が鬼籍に入ったのです。リーダーの死去に加え、会員の高齢化、若手会員の参加もままならず存亡の危機を迎えたのがこの時期でした。

名古屋江古田会7人の幹事団が平成26年10月、今後の会継続の是非を相談した際、幹事中唯一の平成卒だった藤田氏が「先輩たち幹事のバックアップがあるなら校友会公認の江古田会に向けてがんばる」との意向を表明。一気に今回の愛知江古田会創立に向かったのです。のちに

平成組の成田氏も幹事に加入し土岐、眞鍋美紀(演劇S47)両幹事と合わせて若手、女性会員勧誘に尽力しました。

今総会では酒井庸行参議院議員(放送S49)をはじめ、名古屋江古田会以来初参加の会員9名も紹介され、新生愛知江古田会の目指す平成卒と女性二つの「せい」力拡大にも手応えを感じました。最後に竹岡幸彦幹事(写真S42)による記念撮影、



精園喜昭幹事(写真S41)の中締め挨拶があり無事お開きとなりました。

広島が25年ぶりのカープ優勝に沸いた夜、名古屋でも愛知県支部立ち上げ成功に、感涙にむせんだ幹事が何人かいたとか。

問合せは藤田支部長(電話090-1783-5103)まで。

幹事 村井秀樹(放送S41)



江古田会各支部連絡表

各江古田支部に
ご在住の校友の皆さん

各支部では参加者を募っております
ので是非皆様のご連絡をお待ちして
おります。

支部名	名 前	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送 52 年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇 32 年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽 54 年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	佐藤 剛	演劇 53 年度卒	0197-25-5497
宮城江古田会	桑折 洋一	放送 55 年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術 52 年度卒	023-631-8040
新潟江古田会	増井 伸一	写真 48 年度卒	025-233-3910
福島江古田会	島崎 恒夫	映画 31 年度卒	024-935-5410
長野江古田会	三浦 博之	放送 49 年度卒	0263-46-2583
石川江古田会	干場 文夫	音楽 50 年度卒	090-6273-4982
愛知江古田会	藤田 勝	演劇平成 9 年度卒	090-1783-5103
岡山江古田会	藤井 一也	文芸 53 年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真 44 年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	光野(北島) 忠利	映画 41 年度卒	090-9659-0952
熊本江古田会	奥村 隆志	写真 43 年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真 52 年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送 49 年度卒	090-3739-7374

海外江古田会として台湾江古田会、韓国江古田会、中国江古田会があります。

学科ニュース

写真ブロック



●今年度から「写真表現研究Ⅶ(文化財写真)」を谷昭佳先生を迎えて開講しました。

●6月10日に江古田校舎で、平成16年度卒業の細倉真弓氏による「写真集の企画と編集」についての特別講座が行われました。写真集を制作する意図やその企画について、『Transparency is the new mystery』など多くの写真集を独自の形で展開してきたお話を伺いました。

●7月5日に江古田校舎で、平成14年度卒業の濱田祐史氏により写真集『photograph』や『C/M/Y』の作品制作過程についてお話し頂きました。

●「写真機材展」を江古田校舎東棟2階の学生ホールで7月20日、21日に開催しました。メーカー21社の参加がありました。今回、インクジェットペーパーのメーカー7社がペーパーの紹介や即売もして下さいました。

恒例の掘り出し市、また昨年より増えました籤による写真関係のグッズが当たる企画も催され、多くの学生で賑わいました。

●高校生のためのワークショップを7月17日、18日に開催しました。銀塩コースとデジタルコースに分かれて、それぞれの作品をプリントしました。今年は定員を超える申し込みがあり、抽選により選ばれた方の参加となりました。

●写真甲子園(7月25日から31日)および東川町国際写真フェスティバル(メイン会期7月26日から31日)をバックアップしました。

●7月25日～8月31日、北海道上川郡東川町のキトウシ森林公園ギャラリーで、東京工芸大学芸術学部写真学科との合同企画で写真展「暁-AKATSUKI-」を開催しました。出品者は、2年生の水野敦史、山田凌、3年生の安藤すみれ、金成津、車田大樹、渡邊浩史、4年生の本永創太です。

●10月11日から17日に「出て来い新人5ー日本大学芸術学部写真学科気鋭学生写真展」をニコンサロンbis新宿で開催します。出品者は4年生の池

上功一、石田健、金井めい子、古賀一樹、下川成、高岡辰伍、福原歩、山田貴史です。

●10月22日から30日に「NICHIGEI PHOTO in WACCA Vol.4」を池袋WACCAで開催します。4階のギャラリースペースでは1年生の石田真緒が「私の見た「いま」の池袋」、館内壁面では2年生の重岡あすかが「バンドの休日」の展示を行います。

●11月1日～12月2日「オリジナルプリント展 Life-animals & birds」を芸術資料館で開催します。詳細は芸術学部ホームページをご覧ください。会期中の11月3日～5日は芸術祭です。学生の写真も併せてご覧いただけます。ご来校をお待ちしております。

●松田義弘教授(昭43年度卒)が4月2日に、続いて原直久教授(昭43年度卒)が8月15日に定年を迎えられ、非常勤となりました。

●直近情報等は写真学科公式Facebook/Twitterで発信しておりますのでご活用ください。

映画ブロック



●「映画学科同窓会」が行なわれました

平成28年6月5日(日)映画学科同窓会が江古田校舎大ホールで開かれました。大ホールでの懇親会に先立ち、施

設見学も行なわれました。各年代、各コースの卒業生300名が参加しました。

●「フォーカスイン'2016」

平成27年度卒業制作、映画演出Ⅲ／映画技術Ⅲによる作品上映会「フォーカスイン'2016」が、6月14日(火)、15日(水)、17日(金)～19日(日)までの5日間、江古田校舎東棟EB-2教室で行なわれました。61作品が上映され、500名あまりが来場し盛況

のうちに幕を閉じました。

●平成28年度オープンキャンパス
今年度のオープンキャンパスは平成27年6月26日(日)に江古田校舎で行なわれました。映画学科では、学科説明、映画学科施設見学ツアー、映像表現・理論コースの説明会、卒業制作や映画演出Ⅲ／技術Ⅲの実習作品上映会、進学相談が来校した受験生に對して行われました。

美術ブロック



■第7回柳瀬荘教育アートプロジェクト

会期:9月20日～10月1日

会場:東京国立博物館

柳瀬荘(埼玉県)

美術学科教員、非常勤講師、大学院生、卒業生が参加する教育アートプロジェクト。

■越境する版表現Ⅲ 一版17とレオン・ザクライシェッカー

会期:9月26日～10月7日

会場:INOAC銀座並木通りギャラリー

笹井祐子教授と五島三子男(S46年度卒)が出品。

■第48回 日本版画協会 版画展

会期:10月5日～10月19日

会場:東京都美術館

有地好登教授、濱田富貴講師、松下サトル講師、元田久治講師が出品します。

■第69回立軌展

会期:10月13日～18日

会場:東京都美術館

大庭英治教授、福島唯史教授、太田冬美講師が出品。

■笹井祐子 個展

会期:10月15日～27日

会場:ATELIER・K ART SPACE

■江古田ユニバース2016

会期:10月26日～11月6日

会場:江古田駅周辺のギャラリー、駐輪場

今村克助手が出品します。

■福島唯史 個展

会期:10月29日～11月12日

会場:日動画廊

■日本大学付属高校生自画像デザインコンクール

会期:10月31日～11月12日

会場:江古田校舎A&Dギャラリー
美術学科主催による付属高校生を対象とした自画像コンクール

■第41回全国大学版画展

会期:12月3日～18日

会場:町田市立国際版画美術館
版画専攻の学生が出品。



■(財)北野生涯教育振興会 彫刻奨学金受賞者展

会期:12月6日～21日

会場:芸術学部芸術資料館他

■第41回土日会展

会期:12月7日～19日

会場:国立新美術館

1976年に友情と情熱を基盤として絵画を中心に自由快活な研究団体として誕生しました。櫻井孝美客員教授他、美術学科卒業生が多数出品。

■「ホッとする! いっしょに居たいアートたち」

会期:11月18日(金)～30日(水)

会場:九段燿画廊

鞍掛純一教授が出品 します。

■新進芸術家育成交流作品展[FINE ART / UNIVERSITY SERECTION 2016-2017]

会期:12月20日～12月25日

会場:茨城県つくば美術館

今村克助手、大山智子助手、大橋朋美助手が出品 します。

■日本大学大学院芸術学研究科造形芸術専攻修了制作展(美術系)

会期:2017年1月11日～2月3日

会場:芸術学部芸術資料館、A&Dギャラリー

■日藝版画修了卒業制作展

会期:2017年1月30日～2月4日

会場:ギャラリー川船

版画専攻の卒業制作展を出品

※1月30日ガラリートーク有

■平成28年度 第40回東京五美術大学連合 修了・卒業生制作展

会期:2017年2月23日(木)～3月5日(日)

会場:国立新美術館

平成28年度美術学科卒業・修了制作を出品

■大橋朋美 個展

会期:2017年3月13日～3月18日

会場:galleria grafica bis

■日藝の卒博

会期:2017年3月13日～21日

会場:江古田校舎アトリエ他

卒業制作を展示 します。

■五島三子男(S46年度卒)の作品

が、横須賀美術館に収蔵されました。卒業して間もない昭和48年の作から平成25年迄の間の作12点が横須賀美術館に収蔵されました。

音楽ブロック



平成28年度音楽学科主催演奏会は、次の通りです。いずれも入場無料ですので、お気軽にご来場ください。

●第119回定期演奏会

於：練馬文化センター小ホール

10月12日(水)

17時30分開場／18時開演

<出演者>

ピアノ独奏：有泉達史

ピアノ独奏：奥山千夏

ピアノ独奏：岩佐椋太

ソプラノ独唱：寺澤裕子

ソプラノ独唱：高木未佳

ソプラノ独唱：竹内京花

マリンバ独奏：及川竜平

ホルン独奏：白井佑香

フルート独奏：劉慧

サクソフォーン独奏：小熊祥太

チューバ独奏：村野詩穂

サクソフォーン独奏：塚平満美子

ソプラノ独唱：金子瑞季

ソプラノ独唱：桶本真未

ソプラノ独唱：苅込紗樹

作品発表：芝田佳央

ピアノ独奏：芦川崇人

ピアノ独奏：石村頼史

ピアノ独奏：松島聖響

●第120回定期演奏会

於：北とびあ さくらホール

10月24日(月)

18時00分開場／18時30分開演

<演奏曲目>

マルティヌー／オーボエと小管弦楽のための協奏曲(オーボエ独奏：長谷川喜春)

ドップラー／ハンガリー田園幻想曲(フルート独奏：原嶋実喜)

ヴェルディ／歌劇「ドン・カルロ」“世の虚しさを知る神よ”(ソプラノ独唱：千田美佳)

ウェーバー／クラリネット協奏曲第2番(クラリネット独奏：高武美月)

松本真結子／昔噺(作品発表)

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番ハ短調(ピアノ独奏：小針侑也)

○指揮 今泉久、右近大次郎

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

●第44回ファカルティーコンサート

於：芸術学部音楽小ホール

10月29日(土)

17時30分開場／18時開演

音楽学科の教員による演奏会です。

●第45回ピアノコンサート

於：練馬文化センター小ホール

11月14日(月)

15時00分開場／15時30分開演

本学ピアノコースの学生による選抜演奏会です。

●第47回オペラ公演

於：練馬文化センター小ホール

11月17日(木)

17時30分開場／18時開演

<演奏曲目>

歌劇「フィガロの結婚」(ハイライト)

○指揮 江上孝則

○演出 岩田達宗

●第28回ウインドオーケストラ定期演奏会

於：練馬文化センター大ホール

11月22日(火)

18時開場／18時30分開演

<演奏曲目>

バーンズ：交響曲第2番

チャイコフスキー：序曲「1812」他

○指揮 稲川榮一

○演奏 日本大学芸術学部ウインドオーケストラ

●第121回定期演奏会

於：新宿文化センター大ホール

12月5日(月)

18時開場／18時30分開演

<演奏曲目>

サティ／バレエ音楽「パラード」

尾高尚忠／フルート協奏曲(フルート独奏：萩原貴子)

プーランク／スターバト・マーテル(ソプラノ独唱：斉田正子)

ストラヴィンスキー／バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

○指揮 矢崎彦太郎

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

○合唱 日本大学芸術学部音楽学科合唱団

●第37回新作室内楽の会

於：芸術学部音楽小ホール

12月16日(金)

18時開演予定

提出作品より選抜された演奏会です。

●第52回室内楽の夕べ

於：練馬文化センター・小ホール

12月19日(月)

17時30分開場／18時開演

9月末に行われる室内楽学内演奏会において、優秀であった団体による演奏会です。

文芸ブロック



■第32回日大文芸賞を、文芸学科関係者が独占！

日本大学新聞社主催・第32回日大文芸賞の入選発表が行われ、文芸学専攻2年生の田中里咲さんが「伐採」で最高位の文芸賞を受賞しました。また、2016年文芸学専攻修了の入倉直幹さんが「青い給水塔」で優秀賞を、2016年文芸学専攻修了の林万比さん

「碧に近づくとき」、卒業生の藤原侑貴さん「帰郷」、本学科2年生の島崎葵さん「くれなゐのよる」がそれぞれ佳作を受賞しました。

田中さんの受賞作品は日本大学新聞9月号に全文掲載される予定です。

■文芸学科1年の武田穂佳さんが第59回短歌新人賞に入選！

昭和7年創刊の短歌総合誌「短歌研究」編集部が主催する、第59回短歌研究新人賞において、武田穂佳さんの「いつも明るい」30首が受賞しました。受賞作は「短歌研究」9月号に掲載されます。

■「第27回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」に入選！

「第27回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」には、過去最多の186万2,954句の応募があり、下記の文芸学科生の作品が入選しました。

◎佳作特別賞

山道の汗ばむ地蔵拭う祖母
上梨裕奨(文芸学科2年)

◎佳作

ジャズを聴くイヤフォン越しに若葉風
城前佑樹(文芸学科3年)
置き去りの土管の傍の土筆かな
羽生田幸来(文芸学科3年)
五線譜に丸くなりたる雀の子
秋元若菜(文芸学科3年)
薄氷を踏み抜けば夜は明けにけり
芳司直(文芸学科3年)

演劇ブロック



定期刊行物のご案内

演劇学科では下記の刊行物を年1回、毎年3月に発行しております。いずれも非売品ですが、入手またはバックナンバー閲覧ご希望の方は、学科宛にご連絡ください。

- ・演劇学科機関紙「演劇創造」
 - ・劇作コース戯曲集「DRAMA21」
 - ・大学院舞台芸術専攻論文集「舞台芸術研究 Performing Arts Studies」
- ### 第43回演劇資料展

当学科では毎年秋に芸術資料館と共催で舞台芸術に関する資料展を開催しております。本年は下記の通り実施致します。ぜひご来館ください。
「1966年、自由劇場始まりの年」
会期：9月27日(火)～10月28日(金)
時間：平日9時30分～16時30分、土曜9時30分～12時(日曜祭日・10月4日は休館)

会場：芸術学部芸術資料館(江古田校舎・西棟3階、入場無料)

公演のご案内

後期授業発表を下記の日程で行います。いずれも入場無料ですが、ご観劇には事前予約が必要です。学科ホームページの予約フォームからお申込ください。

<http://theatre.art.nihon-u.ac.jp/>

会場は、★が江古田校舎北棟・中ホール、☆が江古田校舎北棟・小ホール、▼が所沢校舎・アートセンター内ブラックボックスです。

★総合実習ⅢB(洋舞)「Dance Performance～ロンド・カノン形式による創作～」

創舞指導：松永雅彦

10月28日(金)、29日(土)

☆卒業制作(演劇)「糸地獄」

演出指導：神永光規、山田和也

11月11日(金)～16日(水) ※13日休演

★総合実習ⅢA(演劇)「二十世紀少年少女唱歌集」

演出：和田喜夫

11月18日(金)～20日(日)

▼総合実習ⅠB(洋舞)

「Dance Performance～シンメトリー形式による創作～」

創舞指導：加藤みや子、松永雅彦

11月25日(金)、26日(土)

★総合実習ⅡC(日舞)「四季」(仮)

創舞指導：花柳せいら

11月26日(土)

★卒業制作(日舞)「こゝろ」(仮)

創舞指導：花柳基

12月2日(金)、3日(土)

▼総合実習ⅠD(演劇)「カラカラ天気と五人の紳士」

演出：中野成樹

12月8日(木)～10日(土)

★卒業制作(洋舞)「Dance Performance～自由形式による創作～」

創舞指導：加藤みや子

12月9日(金)、10日(土)

▼総合実習ⅠC(日舞)「タイトル未定」

創舞指導：藤間恵都子

12月17日(土)

★卒業制作(演劇)「書を捨てよ、町へ出よう」

演出指導：神永光規、山田和也

12月20日(火)～23日(金)

放送ブロック



■中学生のための「情報番組制作ワークショップ」

練馬区と放送学科が共同で実施している情報教育推進事業「中学生のための「情報番組制作ワークショップ」」が今年も開催されました。

第7回目の今回は、練馬区在住の中学生18名が集まり、鈴木康弘教授の指導のもと6月25日から7月30日に渡って行われました。

このワークショップは、企画立案から番組完成までを中学生が実践的に取り組むことで、メディア・リテラシーを学ぶことを目的としています。

8月2日にはまとめとして、制作した番組の上映と鈴木教授の講演が行わ

れ、参加した中学生だけではなく、多くの一般の方々も聴講されました。

■「ONE SHOH」でグランプリ受賞
米国・ニューヨークにて行われた、世界三大広告祭のひとつ「ONE SHOW2015」で、茂木彩海さん(平成22年度卒・株式会社電通勤務)と、同じく電通勤務の今井祐介氏がデザイン部門グランプリを受賞しました。受賞作は「コクヨデザインアワード2012」でグランプリを受賞し、商品化された「なまえのないえのぐ」のデザイン。文字通り色に名前がなく、自由な発想でお絵描きを楽しむ事ができる水彩絵の具です。

■TCC賞で最高新人賞受賞

東京コピーライターズクラブによる今年度TCC賞の審査結果が発表となり、渡邊千佳さん(平成22年度卒・株式会社電通勤務/電通九州出向)がTCC最高新人賞を受賞しました。受賞作は、今年1月から長崎県限定で

放送されている長崎バスのCM。主演・監督は役所広司さん。このCMは長崎自動車設立80周年を記念して制作されました。現在不足しているバス運転手の募集告知も兼ねたCMとなっています。

受賞作品は下記サイトを御覧になれます。

<https://www.nagasaki-bus.co.jp/recruit/businfo/lp/>

■「TODAY'S MESSAGE」出版
ヒーリングサロンを設立し、グルーブワークショップやスピリットヒーリングをプロデュースされた竹ノ下美恵さん(平成2年度卒)。2014年3月に脳の病気のため逝去されましたが、同級生だった菅野綾子さん(平成2年度卒)が中心となり、竹ノ下さんの言葉をまとめた「TODAY'S MESSAGE」が、この度出版されました。Amazon経由で購入する事が出来ます。

デザインブロック



●がん征圧ポスターデザインコンテストでデザイン学科生が最優秀賞を受賞

公益財団法人日本対がん協会主催の第4回がん征圧ポスターデザインコンテストにて、デザイン学科2年の山本沙羅さんが最優秀賞を受賞しました。山本さんの作品『身体の中の悪いやつ』は、9月のがん征圧月間をアピールするポスターとして全国の自治体に掲出されました。

●スペースデザインの授業課題「練馬区立こどもの森 遊具制作」がAXISに掲載されました

平成27年4月の練馬区立こどもの森の竣工にあわせ、デザイン学科2年次のスペースデザインI(桑原淳司教授担当)の受講生26名が、新しい空間体験遊びができる木製遊具を制作しました。その取り組みや制作過程などが、デザイン誌『AXIS vol.181 2016年05月01日号』に掲載されました。

●学生が描いたイラストレーションが掲載された本が出版されました
デザイン学科生が描いたイラストレーション『妖怪 一異界からのことづて!』(日本文化キャラクター図鑑)が玉川大学出版部から6月16日に発売されました。イラストを担当した学生は、宇佐美涼美さん、岩館朱理さん、橋本里奈さん(デザイン学科4年)、土屋真由さん(デザイン学科3年)です。この本の筆者がリサーチした資料をもとに、どのように描いたら妖怪

のキャラクターが表現できるかを半年かけて試行錯誤し完成しました。是非、お手にとってご覧下さい。

●「D&AD Awards」の若手部門「New Blood」にデザイン学科生の作品がグラフィットペンシル(シルバー)を受賞

デザイン学科3年の中谷真さん、佐伯沙都さん、石岡花子さんがロンドンの百貨店John Lewisのディスプレイ・デザインとして提案した『Frosted Window』が、国際デザイン・アワード「D&AD Awards」の「New Blood」(若手部門)に入賞しました。Yellow Pencilで親しまれる「D&AD Awards」は、ロンドンを本部とするNPO Design and Art Directionによって主催され、第一線で活躍するデザイナーやクリエイターにとって、世界最高峰の国際クリエイティブ賞として知られてい

ます。「New Blood」は同アワードの24歳以下を対象とした若手部門で、今年は17の企業や団体から課題が公開されました。John Lewisからは本作品を含む12点が入賞し、2016年7月7日、ロンドンで授賞式がおこなわれました。

●クラブ・オブ・ノーツ国際コンペティションで学生グループが3位(Bronze)を受賞

世界トップクラスの付箋紙メーカーAMC社(ドイツ)が主催するクラブ・オブ・ノーツ国際コンペティションに、本学科の学生有志が日本法人「プリントインフォームジャパン」のご協力により参加しました。このコンペは新しい付箋紙の使い方をマーケティングの視点から提案するという

もの。今回受賞したメンバーは龍華李加子さん、古川絵里奈さん、安田一平さん、岩館朱理さん、市木美優さん、南千晶さんの計6名(デザイン学科4年)。「Novelty goods for supporters of soccer games」をいうサッカーを応援するグッズを付箋で作り、プロモーショングッズとして展開するという提案で、見事に銅賞(3位)を獲得しました。授賞式はドイツ、ハンブルグでおこなわれました。

●第3回構造デザインコンペティションで大学院生が審査員賞を受賞
第3回構造デザインコンペティションで大学院生の王耘牧(造形芸術専攻2年)が審査員賞を受賞しました。このコンペティションは学生、若手実務者のためのもので「まち、呼応、

構造」というテーマで「まちづくり」を提案するというもの。応募総数80作品のなかから第一次審査において20作品がエントリーされ第二次審査の公開プレゼンテーションにおいて今回の受賞が決定しました。

●JAGDA 学生グランプリ2016にて学生3名が入選

日本グラフィックデザイナー協会が主催する「JAGDA学生グランプリ2016」にて、応募総数810作品(累計983枚)の中から、小川綾佳さん、盧安莉さん、渡邊裕之さん(デザイン学科3年)の3名が入選しました。入賞・入選作品(111作品)展は、8月26日から9月11日まで東京ミッドタウン・デザインハブにて開催されました。

あなたの作品おまちします

第41回土日会展: 絵画作品を公募しています

会 期 2016(H28)年12月7日(水)～
12月19日(月)
会 場 国立新美術館1階展示室1A室
搬 入 11月25日(金)
問合せ 土日会事務局
0422-48-1007 T&F
遠慮なくお問合せください
事務局 三浦裕之
日大芸油院生～卒生約60名出品

総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン▶1985年発足。絵本、コミック、アニメほか、企画本の出版プロデューサー、また、各種イベントの企画・構成・プロデューサーなども行っている。

☎03-5999-6911

design:スタジオ・マイ

編 集 後 記

ポケモンGOの人気のいつまで続くのかは分かりませんが、江古田校舎にも所沢校舎にもポケストップが3つずつあります。母校にお立ち寄りの際には、ぜひポケモンボールを補充したり、学生とともにポケモンをゲットしたりしてください。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部校友会報・第97号

2016年秋季号●平成28年10月発行●

- 編集人 会報編集委員会
- 発行人 綾部東洋子
- 広報担当 西垣仁美 鳥山正晴 笹井祐子
川上 央 青木敬士 原 一平
安部 裕 長瀬浩明

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 星野 祥子

●印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16
コア本郷ビル
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表紙
五島 三子男
タイトル Vanishing scenery I-10
制作年 1987年～2012年
サイズ 39.0×58.4cm
技法 リトグラフ、ドローイング

2017年度一般入学試験A方式〈第1期〉・〈第2期〉日程

I 一般入学試験A方式〈第1期〉諸日程(募集人員359名)

学科及び募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (40) 美術(2月7・8日試験) (15) 音楽 (38) 放送 (59) デザイン (30)	1月31日(火)	1月31日(火) ・2月1日(水) のみ 窓口受付	2月7・8日(火・水)	芸術学部江古田校舎	2月16日(木) 13:00	3月2日(木)
			2月7・8・9日(火・水・木)		一次 2月9日(木) 14:00 二次 2月16日(木) 13:00	
			一次 2月7日(火) 二次 2月10日(金)		2月16日(木) 13:00	
			2月7・8日(火・水)			
映画 (72) 美術(2月14・15日試験) (15) 文芸 (47) 演劇 (43)	2月7日(火)	2月7・8日 (火・水)のみ 窓口受付	2月14・15日(火・水)	芸術学部江古田校舎	2月23日(木) 13:00	3月9日(木)
			2月14日(火)			
			2月14・15日(火・水)			

※ 一般入学試験A方式に関する〈第1期〉各期日はすべて2017年のものとします。

※ 出願受付開始期日は2017年1月8日(日)、一般入学試験〈第1期〉の入学手続きは二段階手続方式が可能。

二段階方式の最終入学手続期限は2017年3月24日(金)とします。

※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。

※ 1月30・31日、2月6・7日(いずれも月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。

(受付時間=10:00~16:00)

※ 1月31日、2月1日、2月7・8日(いずれも火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。

(受付時間=10:00~16:00)

II 一般入学試験A方式〈第2期〉諸日程(募集人員77名)

学科及び募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (5) 映画 (10) 美術 (5) 音楽 (4) 文芸 (15) 演劇 (10) 放送 (20) デザイン (8)	全学科 2月28日(火)	2月28日(火) 3月1日(水) のみ 窓口受付	3月7日(火)	芸術学部江古田校舎	3月16日(木) 13:00	3月24日(金)
			3月7・8日(火・水)		一次 3月9日(木) 14:00 二次 3月16日(木) 13:00	
			3月7日(火)		3月16日(木) 13:00	
			3月7・8日(火・水)			
			一次 3月7日(火) 二次 3月10日(金)			
			3月7・8日(火・水)			

※ 一般入学試験に関するA方式〈第2期〉各期日はすべて2017年のものとします。

※ 出願受付開始期日は2017年1月8日(日)、入学手続期限は2017年3月24日(金)とします。

一般入学試験〈第2期〉に関しては一括での手続きとします。

※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。

※ 2月27・28日(月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。(受付時間=10:00~16:00)

※ 2月28日(火)・3月1日(水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。(受付時間=10:00~16:00)

◎ 上記入学試験の他、今年度より一般入学試験N方式〈第1期〉を実施します。

詳細については、芸術学部ホームページ (<http://www.art.nihon-u.ac.jp>) を確認してください。